

工業高校における

情報処理教育のあり方と実践について

— 県立会津工業高等学校 —

一、はじめに

今日、エレクトロニクス技術を中心とした情報技術の著しい進展により、コンピュータがあらゆる分野に普及し、高度情報化社会に移行しつつある。

教育委員会では、重点施策の一つ「豊かな人間性をはぐくむ学校教育の推進」の中で、「情報処理教育の拡充」を掲げ、前年度までに職業科・普通科合わせて千六百一台のパーソナルコンピュータを整備し、今年度は汎用コンピュータ、パソコンネットワークシステム一校、ワードプロセッサ（四十八台）五校、パソコン（二十台）三校への導入を予定している。

このような状況の中で昭和六十一年・六十二年の二か年にわたり教育委員会は「情報処理教育」研究の工業分野の研究校に会津工業高等学校を指定した。

本校のコンピュータ利用によるCAI学習、計測、制御等の工業専門科目の学習、学校運営面のCMIなど、情報機器活用についての全校あげての取り組みは、これからの情報化時代の先導的实践であり、今後の工業高校のみ

ならず普通高校等にも示唆を与えるものと期待される。

以下にその概要を紹介する。

二、研究主題の設定

本校は全国でも有数の特色ある学科を持つマンモス校である。これらの工業学科を支えているのが普通教科であり、側面から援助しているのが校務分掌上の各課である。このことを十分に

踏まえて研究に取り組む姿勢が肝要である。そのためには、工業科だけという枠をはずし、情報処理教育について学校全体で取り組み、その底辺を拡大することである。

そこで、標記の研究主題を設定し、次の三つの基本方針を打ち出した。

① 工業科・普通教科・各課を含めて学校全体で取り組む。

② 各学科においては、それぞれの特色を十分生かす情報処理教育のシステム化を確立する。

③ 校務を効率的に処理する運営体制の確立を図り、生徒情報のデータベースの基礎をつくる。

三、研究目標と研究方法

② 現有設備を最大限に活用する。

○ 生徒の興味関心を喚起する教材の開発と指導テキストを作成する。

まず、各教科、各課ごとに必ずその趣旨に添った研究テーマを掲げ、研究目標を設定して実践し、検証するという方法で進めることにした。

次に、本研究を推進するための具体的な研究目標を上げる。

① 各学科ともその学科の特色を出せる体系的な情報処理教育のシステムを確立する。

○ カリキュラム編成を見直す。

○ 情報処理教育の年間指導計画を作成する。

資料1 研究経過

年度	研究経過	
初年度 (昭和六十一年度)	4月：情報処理教育研究指定校となった。 ：研究主題を決めた。	
	5月：指定校連絡協議に研究構想を提出した。 ：各課、各学科の研究テーマが出揃った。	
	7月：パソコン、FM-77AV2を購入し、電算室に設置した。パソコン講習会を実施。 ：本校職員、生徒にアンケートを実施した。	
	8月：管内中学生対象にアンケートを実施した。	
	9月：アンケートの集計、検討をした。	
	11月：現代化講座において、中間発表をした。	
	2月：県教委より指導主事を招き、校内中間発表会を開催した。	
	3月：初年度の反省にもとづき、研究組織を再編成し、月別の研究計画を立てた。 ：県教委より、パソコン、シャープMZ-2500…10台、プリンタ5台が配備された。 ：次年度のパソコン時間割を編成。	
	次年度 (昭和六十二年度)	4月：「情報委員会だより」を発行開始した。
		5月：研究指定校連絡協議会 ：第1回校内ワープロ講習会 ：第2回校内ワープロ講習会 ：職員研修会「情報処理研究について」
		6月：第二回目のアンケート調査を実施した。
7月：コース別研究会の基本方針が決定された。 ：校内パソコン講習会		
8月：PC-9801が導入された。 ：生徒情報のデータベース化を開始した。		
9月：「情報委員会だより」5回目の発行		
10月：研究集録、研究資料、発表要項の印刷、製本完成		
11月：研究発表会 ：研究報告書を県教委に提出		